

松本市とのコロナ対策懇談会 報告

2021年2月1日

報告：片桐

日時： 2021年1月29日（金）

場所： なんぷくプラザ 共有会議室

参加： 松本市役所障害福祉課 沢田課長補佐

ハートラインまつもと（諏訪智子さん）、ドリームワークス（小野沢ハレルさん）

ケセラ（西村昭太さん）、アルプス福祉会（村松功啓さん）、

基幹相談支援センター（片桐政勝）

内容：

1、グループホーム利用者感染者の宿泊療養先の確保

○意見交換

- ・松本市でGH支援者のPCR検査に補助制度を創設いただいたことはありがたい。
- ・検査のタイミングが利用する側にあり、期間を広げていただけるとさらに良い。職員が濃厚接触者疑い・濃厚接触者に決まった際、その身近で働いていた他の職員が受けられるとなおありがたい。
- ・陽性者が出た際の療養先の確保が未確定のまま実施すると、感染者が出た際に困ってしまう。療養先の準備も併せて進めてほしい。それがないと、安心して検査をしようとはならない。
- ・朝日村では村の施設（キャンプ場のコテージ）を利用して療養ができるように準備していると聞いている。松本市でも市の施設や空いている宿泊施設（旅館、民宿等）を借り上げて準備してほしい。
- ・宿泊療養先には支援者と療養者がフローを分けて過ごせるような工夫が必要。医療従事者に加え、日頃の様子を知っている支援者がいないと対応できない。
- ・行動障害のある人の場合は、日頃利用しているGHを療養先にして、他の支援者は別の場所で過ごす方が落ち着いて療養できる。日中支援の場所を閉所して、他の施設の陰性者を受入れるという連携も必要に思う。事業者の中には、日中支援の場を持たない事業者もいるので、施設間の連携で対応する方法もある。

○行政から

- ・市の管理する建物等で使用できる場所があるか、使用できるか検討したい。

2、居宅介護事業所の減収補償の実施

○意見交換

- ・居宅は感染があっても身体介護等の支援は継続するように国から示されている。一方、外出などを行う行動援護や移動支援等は利用自粛や制限等で利用が減少し、収入減となっている。障害福祉サービスでは、行動援護等が支援に占める割合は多く、仕事のない分職員への補償は法人が持ち出している。収束のめどが立たない中で事業継続を行うのは困難とも言える。

○行政から

- ・移動支援の支出状況を見ても、減収になっている状況は理解している。また、タクシーの事業

者もかなり減収となっている。何か良い連携や解決策はないかと思う。

3, 就労継続 B 型事業所利用者の工賃保障

○意見交換

- ・ケセラでは 100 万程赤字になっている。給付費からの支出を認められているが、赤字であることには変わらず、長期化すると法人事業そのものの存続にも影響を及ぼす。
- ・ドリームワークスでも売り上げが 64%減少。販売の機会がなく困惑している。他の販売方法も検討しているが、工賃の減少は回避できない。
- ・他県、他市では独自に障害のある人の工賃補償を決め支給している実態がある。それぞれのホームページに申請用紙等が具体的に出ているので、それらを参考に工賃補償を考えていただきたい。

4, 国・県への事業所支援の要請の実施

○意見交換

- ・居住系事業所で感染対策として利用者の通所をストップしている。事業所毎に対応が異なるので、仕方ないことではあるが、利用者への影響を考えると話し合いがなく、一方的に決めるのはどんなものか。
- ・居住系事業所と日中事業所の法人が異なると、一方を利用しなくなると一方は給付費が請求できなくなる。互いに連携して対応していても、一方しか請求できないのは納得できない。改善できるように行政からも県・国に要請してほしい。

5, 松本市独自の PCR 検査補助制度について

- ・検査のタイミングを法人に預けてほしい。濃厚接触者・濃厚接触者疑いの人が出た際に、周辺の職員・利用者に検査ができるよう考えてほしい。
- ・検査態勢が整っても、陽性者が出た際の対策がない中では積極的に検査をする気になれない。陽性者が出たときの体制整備を進めてほしい。

6, 松本市から

- ①陽性者が出た際の療養先について、市に持ち帰り建物等の活用等を検討する。
- ②市では独自に備品の備蓄をしている。県の備蓄品が供給されるまでの間、対応できるように考えている。
- ③ワクチン接種は、協力医療機関や嘱託医で対応できるよう検討している。

7, 今後に向けて（要請）

- ①行政で今決まっていること、用意していること、困っていることを事業者に示してほしい。
- ②こうしたコロナ対策の会議を定期開催してほしい。